

実践状況調査結果の分析及び評価の方法について

1. 全体に関して

- 分析及び評価を行う際の主な視点、留意すべき点として、
 - ・ 「こどもの城」が開発又は普及に携わってきた遊びのプログラム（約500種類）と地域の児童館等で行われている活動プログラムの違いを運営主体が明確に認識していない状況が見られる中で、分析及び評価の方法についてどのように考えるか。
 - ・ プログラムを実践した際に「効果的だった」と回答があったプログラムのうち、好実践事例を選定して普及啓発を図ることになるが、選定の基準（尺度）についてどのように考えるか。
- 今回の調査結果では、設問毎の単純集計と事務局において選定した必要と考えられる設問毎のクロス集計を行ったが、分析及び評価をする上で、どの程度までクロス集計を行う必要があるか。

2. 運営主体調査に関して

- プログラムの実践状況では、民営が高く、公営が低い結果が得られたが、効果的な取組を促していく方法についてどのように考えるか。
- 調査結果から得られた課題等について、設置主体である地方自治体に対して効果的な取組を促していく必要があるが、その方法についてどのように考えるか。

3. 利用者調査に関して

- 参加したプログラムについての評価は相対的に高かったが、この結果を新たなプログラムの開発にどのようにつなげていくか。
- 児童館についての評価は相対的に高かったが、この結果を地域の児童館等の果たすべき機能及び役割の検討にどのようにつなげていくか。